

The History of Primary care in OKAYAMA

— 岡山プライマリ・ケアの歩み —

平成 30 年 5 月 吉日

岡山プライマリ・ケア学会顧問

いぬい医院 福岡英明

岡山プライマリ・ケア学会第 25 回記念学術大会（平成 30 年 3 月 21 日 県医師会館）
「みんなの心とからだ・生活を守るプライマリ・ケア～多職種との和で進化しよう～」において、本学会が 25 周年を迎え一つの歴史的区切りを記念し、「岡山プライマリ・ケアの歩み」を振り返りました。

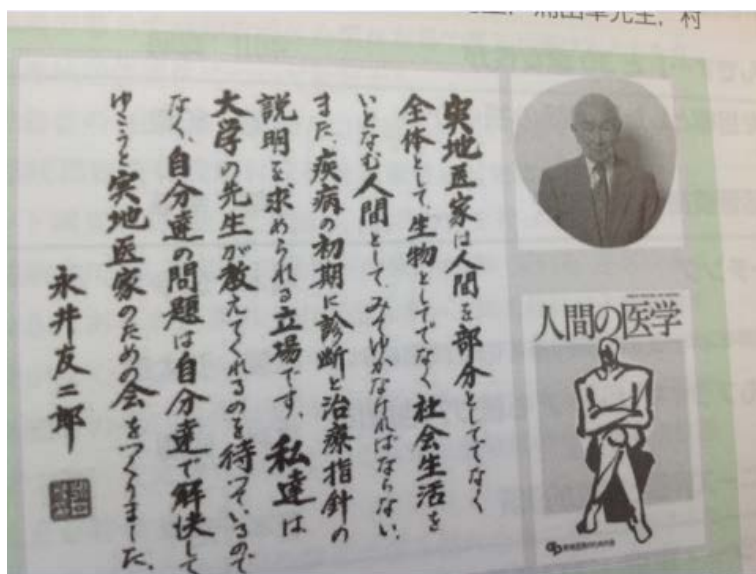
プライマリ・ケアの想いや定義は職種や個人によってそれぞれ違います。医師としての視点で、そして私自身のプライマリ・ケアの歴史を重ねて振り返りました。

プライマリ・ケア学会の歩み

- ◆ 昭和38年 実地医家のための会創設
- ◆ 昭和53年 日本プライマリ・ケア学会発足
- ◆ 昭和59年 岡山で第7回日本プライマリ・ケア学会
- ◆ 昭和59年 日本プライマリ・ケア学会岡山支部発足
- ◆ 平成元年 岡山市医師会プライマリ・ケア研究会
- ◆ 平成9年 第4回支部会から県医師会が事務局
- ◆ 平成20年 岡山で第31回日本プライマリ・ケア学会
- ◆ 平成21年 日本プライマリ・ケア連合学会(改称)
- ◆ 平成21年 岡山プライマリ・ケア学会(支部から改称)
- ◆ 平成25年 地域包括ケアシステム

◆昭和 38 年 「実地医家のための会」 創設

日本のプライマリ・ケアの始まりは、古く昭和 38 年、東京で内科を開業されていた永井友二郎先生が「開業医の生涯教育は自分達の手作りでなくてはならない」と「実地医家のための会」を立ち上げました。「実地医家は人間を部分としてでなく、全体として、生物としてでなく、全体として、社会生活としてでなく、社会生活をいとなむ人間として、みてゆかなければならない。また、疾病の初期に診断と治療指針の説明を求められる立場です。私達は大学の先生が教えてくれるのを待っているのではなく、自分達の問題は自分達で解決してゆこうと実地医家のための会を作りました」これは実地医家のための会誌『人間の医学』創刊号に掲載されたメッセージです。イギリスのファミリーメディシンの定義より古く、世界に先駆けプライマリ・ケア医の理念を掲げました。

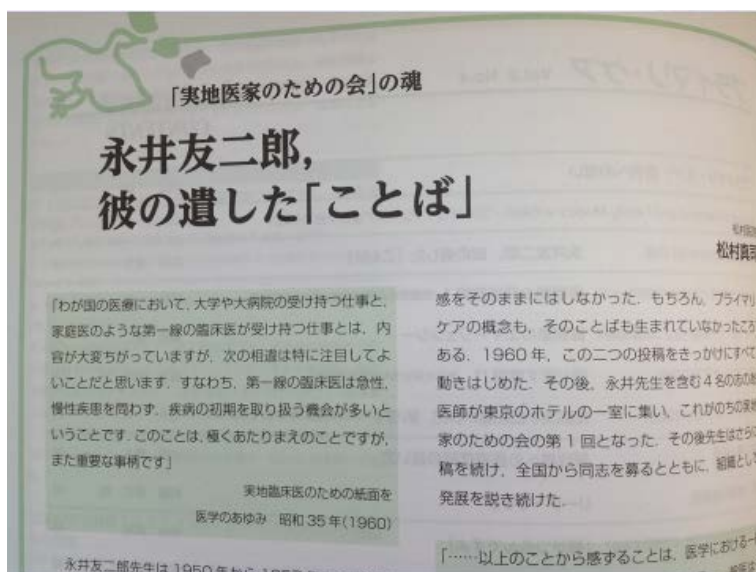


全国から賛同した多くの開業医の先生方が参加しました。その結果、昭和 53 年、日本プライマリ・ケア学会が発足しました。初代会長は「実地医家のための会」の創始者のひとり、渡邊淳先生でした。私も岡山で開かれた第 7 回日本プライマリ・ケア学会で「実地医家のための会」の会員になりました。その後、多くのユニークな実地医家の先生方と交流しています。特に、永井先生には永く薫陶を受けてきました。

永井先生は多くのメッセージを残され、昨年お亡くなりになりました。日本プライマリ・ケア連合学会誌では先生と「実地医家のための会」を 3 巻にわたり特集を組みました。

・日本プライマリ・ケア連合学会誌 2017 年冬季号

「実地医家のための会」の永井友二郎、彼の遺した「ことば」 投稿：松村真司先生



【「一般医の学会」が必要な理由 日本医事新報 昭和 38 年（1963 年）より】

「～以上のことから感ずることは、医学に対する一般医の重要性であり、その責任の重さである。一般医はその本来の使命を遂行する上で、常にその力を養い、又これを発展させていかなければならない。私は以上の視点から、現在孤立状態にある一般医の力を何かの形に有機的に結び付ける必要を強く感じる訳である。」

松村先生は注釈で「これに呼応し全国から参集した多くの一般医の熱意と行動が無ければ、日本プライマリ・ケア学会は生まれていない」と書かれています。

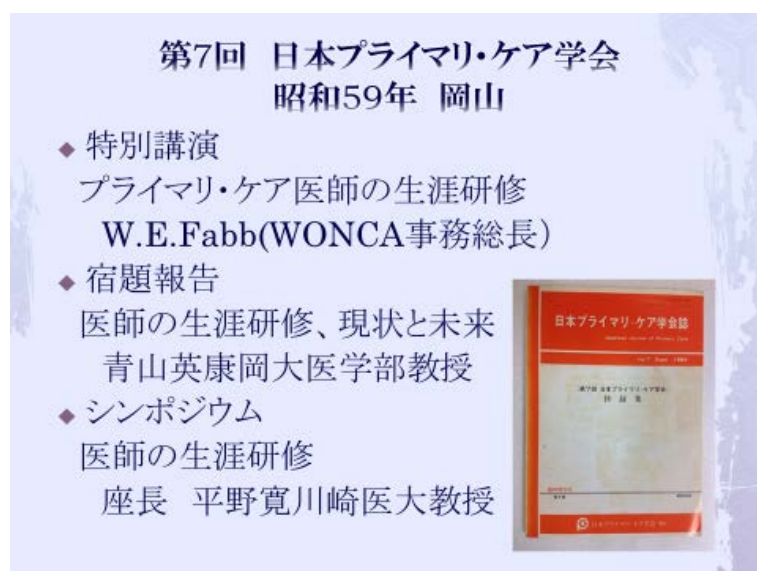
・第 3 回日本プライマリ・ケア学会会頭講演 昭和 55 年（1980 年）

「私はプライマリ・ケアは強い倫理性に基づいて疾病中心の医学に代わって登場した、人間中心の人類が昔から熱望していた最高の保健、医療、福祉だと考えます。従って、プライマリ・ケアは医学に従属するものではなく、むしろ医学の上に立ってこれを充分活用しつつ、さらに広いサイエンス全体、文化全体の力、さらには社会や行政の力まで有効に活用する、広く大きなケアであります。」

◆昭和 59 年 第 7 回日本プライマリ・ケア学会

昭和 59 年 第 7 回日本プライマリ・ケア学会が岡山で開催されました。

岡山のプライマリ・ケアの始まりといってもいいでしょう。私にとっても、プライマリ・ケアの理念と開業医の実践的生涯教育を手に入れた思いで興奮していました。写真はその時の表紙と目次です。木村先生にお借りしました。



会頭講演：柴田川崎医大学長 「プライマリ・ケア重視の医学教育」

特別講演：WONCA Fabb 事務総長 「プライマリ・ケア医師の生涯教育」

宿題教育講演：青山教授 「医師の生涯研修、現状と未来」

プライマリ・ケアの教育、特に生涯教育についてのお話が多く、WONCA（世界家庭医機構）のファブ事務総長のご講演を青山教授が同時通訳されました。地域のニーズがプライマリ・ケア医の生涯教育のテーマだとお話になられ感銘を受けました。

シンポジウムでは、地域ケアに係わる人々の生涯研修をテーマに多職種がそれぞれの地域での生涯研修の大切さを確認しておりました。その頃地域ケアという言葉も新鮮でした。

◆昭和 59 年 日本プライマリ・ケア学会岡山支部が誕生

第 7 回日本プライマリ・ケア学会が開催される年に青山教授の岡山大学医学部衛生学教室を事務局に岡山支部が発足しました。全国で横浜に次いで 2 番目の支部会になりました。

招待講演：日本プライマリ・ケア学会会長 渡邊 淳先生

プライマリ・ケアの実践シンポジウム

司会：青山教授

シンポジスト：青木先生、県保健部長 大森先生、川崎医大総合診療部 平野教授、

故永瀬県医師会長、歯科医師会 石村先生、故浅野市民病院長、

県看護協会 吐山さん、県薬剤師会 赤松先生、県栄養士会 福田さん

岡山支部会は発足時の理念としてこのころから多職種連携を謳い、その実践を軸に置いていました。

プライマリ・ケアの多職種の教育・実践の発表は地域では行われていませんでした。

第 3 回まで支部会は衛生学教室事務局の運営で開催されましたが、残念ながら中断しました。

第1回日本プライマリ・ケア学会岡山支部

◆ 昭和58年1月23日 岡大医学部図書館講堂

◆ 特別講演「プライマリ・ケアの実践」

日本プライマリ・ケア学会長 渡辺淳先生

◆ シンポ「岡山県におけるプライマリ・ケアの実践」

行政 大学 医師会

歯科医師会 薬剤師会

看護協会 栄養士会

計 9名の実践報告



◆平成元年 岡山市医師会プライマリ・ケア研究会発足

昭和 61 年、私は岡山市医師会の生涯教育担当理事に就任しました。平成元年、岡山市医師会プライマリ・ケア研究会を発足させました。100 名を超える熱心な会員が参加しました。現在、166 回を迎える研修会になりました。

○平成 4 年～ ゴールドプラン 訪問診療 訪問看護

・平成 4 年

当時の村瀬日本医師会長はかかりつけ医の推進に力を入れていました。私も日医のかかりつけ医委員会の一員として、全国のかかりつけ医機能のアンケート制作に参加しました。全国の医師がプライマリ・ケア機能のアンケートに参加しました。

居宅が医療の外来・入院について第 3 の医療の場になりました。

診療報酬に寝たきり老人在宅総合診療料が認められました。

・平成 6 年

老人訪問看護制度から、老人だけでなく小児も受けられる訪問看護制度が発足し、現在の訪問看護ステーションが設置されました。

◆平成 9 年 日本プライマリ・ケア学会岡山支部再活動

平成 9 年私は事情があり、岡山市医師会副会長から岡山県医師会理事に就任しました。その年、当時の岡山県医師会永山会長に青山教授から日本プライマリ・ケア学会岡山支部会を県医師会の事務局で再開して欲しいと声がかかりました。

そこで、県医師会会長を支部長にして再活動が始まりました。平成 9 年から県医師会事務局の河原さんが退職されるまで支部事務を担当して頂きました。岡山支部会は多職種連携の研修を再開し、平成 12 年介護保険制度を迎えました。年 1 回ですが、多職種の教育・実践の研究発表が継続しました。

私も平成 14 年から 17 年まで日本プライマリ・ケア学会理事に就任し、青山教授も当時同学会の副会長をされていてご指導を受けました。毎年、学会全各支部会の活動状況を披露してきました。他の支部会では多職種連携の研究会はありませんでした。

岡山県医師会の小谷会長は永山先生と一緒に支部会の活動に積極的に関わっていました。その頃、日本プライマリ・ケア学会から岡山での学会開催の要請が何度もありましたが、残念ながら実現しませんでした。

◆平成 20 年 岡山で第 31 回日本プライマリ・ケア学会学術大会岡山 2008

第 31 回日本プライマリ・ケア学会が当時の県医師会井戸会長が会頭となり開催されました。学会参加者は 2,447 名を数え、医師 1,174 名、歯科医師・薬剤師 248 名、コメディカル 1,174 名、学生 142 名、会員外講師 80 名、学生ボランティア 80 名と盛況でした。

当時の日本プライマリ・ケア学会の前沢会長は挨拶の中で第 7 回の岡山でのプライマリ・ケア学会が若い私にとってプライマリ・ケアの始まりでしたと述べられました。前沢会長から岡山でのプライマリ・ケア功労者として故青山教授、平野教授、故永山元県医師会長、故小谷元県医師会長を表彰して頂きました。

特別講演の「人間的な良い医療を目指して」は「実地医家のための会」永井友二郎先生です。「いのち 健康支援から看取りまで」という演題で行われた総括シンポジウムでは、青山教授が座長を務められ、島根大学医学部環境予防医学の塩飽教授、松岡岡山市保健所長、シーザル理事長宮原先生の顔も見えます。教育講演の「楽しみと安らぎを与えるロボットセラピー ～介護福祉に貢献するロボットの現状と将来～」産業技術総合研究所の柴田さん、この方は当時県医師会専務理事の笠井先生とお友達で呼びいただきました。



◆平成 21 年 日本プライマリ・ケア連合学会(日本プライマリ・ケア学会から) 平成 21 年 岡山プライマリ・ケア学会(支部会から)

平成 20 年学術大会前日、恒例の代議員会が開催され、岡山県ということで私が議長になりました。その席で日本家庭医療学会、日本総合診療学会と日本プライマリ・ケア学会の合併案が決議されました。会場の青山教授は WONCA や多職種の研修の事などを挙げて反対されました。先生の見識はその後の経過で見事に立証されました。その想いは岡山プライマリ・ケア学会が引き継いでいます。

翌日、岡山での 2 回目の開催になる第 31 回日本プライマリ・ケア学術大会はこれまで 16 年間継続した多職種参加型の支部会(以後岡山プライマリ・ケア学会と改称)が大きく後押しし、成功しました。多職種協働と信頼をキーワードにしてきた当支部会はこれを機に新しい支部作りに着手しました。日本プライマリ・ケア学会支部会が解散した事も大きな契機になりました。毎年 1 回だけの学術大会だけでなく、会員性にして継続し、努力した結果を積み重ねていく会にしたいと支部会準備委員会に多職種の代表に大勢集まっていただきました。まず、会則を作成し、会員性にして県下の医療・保健・福祉・介護に関わる人たちを対象にして入会のご案内をしました。

平成 21 年新しい岡山プライマリ・ケア学会は 366 名（医師 97 名、歯科医師 26 名、薬剤師 20 名、多職種 223 名）で発足した。そして平成 21 年 5 月 24 日三木記念ホールで第 16 回学術大会を開催しました。テーマは「プライマリ・ケア連携パス作り～暮らしをみつめ、いのちに寄り添う～」とし、196 名の参加を得ました。

そして、以後活躍の場を広げ、今回 25 回の学術大会を迎えました。学術大会以外に多くの研修会を開催し、結びの輪の実践活動、学会誌・季刊誌も発行して記録を残しています。最近の事は皆さんご存知の事と思います。幅広い活躍をして頂いております。この場をかりまして、オールドの代表として感謝申し上げます。

岡山プライマリ・ケア学会とは！

- ◆ 当学会は昭和59年より多職種協働・連携を目指してきた歴史的な学術団体である。
- ◆ 地域の変化するプライマリ・ケアのニーズを把握する。地域医療→地域ケア→地域包括ケア
- ◆ 地域で小規模な正しい実践を重ねて、会員相互で発表しあい成長していく。
- ◆ 新しい知恵や知識の為の生涯教育を歴史を重ねて得ていく。